第一 市元豆六吊百至六三吊二百
紅糧價錢五吊四百文至五吊
集高共上車三十餘輛
遼陽共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

一七方半紙 一全
一連紙 一連 一圓八十錢
一フールスカップ 一全 四圓
一中判洋紙 一全 二圓
一半紙野紙 百枚 二十錢
一卷紙 四十枚續 十四錢

一椅子 一圓五十錢以上
一簟笥 三十圓以上三十五圓
一卓子 四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子掛 六圓以上十二圓
一廚房用戶棚 七圓五十錢以上十圓

一綿毛布 一枚 四圓以上六圓五十錢
一長火鉢 八圓以上十一圓五十錢
一箱火鉢 二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢 一對 六圓以上九圓

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

告料 一ヶ月以内 銀十五仙乃至十仙
一長期連揭減價面議

發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社 (電話二九番)

滿洲日報

○報價目
每月收取八角代價所及送着人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減
每張四百文

告示

爲

大日本帝國營口監督與
出示曉諭事照得貨財爲商業發達爲之資幣制實貿易繁興之具故必法歸畫一乃可通行更須製造無訛始堪信用熟考當埠幣制雜亂紛繁貴賤低昂莫知所向故有愛英洋錢有好人龍錢有擇大邊錢者他若抹銀錦寶小洋錢等製造不同嗜好各異不可名爲流通貨幣又不適爲公認法貨至於軍用手票大軍所用庶民咸悅今南滿洲到處通行當埠亦交易稱便然自平和克復後逐漸收回代以横濱正金銀行牛莊支店鈔票關東總督告示確有明文横濱正金銀行所發鈔票其持至該銀行兌換需用者立將品質九成色之銀圓兌換故自今未盡收回之手票與鈔票銀圓皆爲當市之流通貨幣用此等銀錢充兌買賣存欠各賬目實爲公認法貨其他貨幣除合意交易外不爲公認自示之後仰闔埠人等一體遵照勿違特示

右諭通知
明治三十九年二月

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫敦 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺

電話 十番 支配人室 百八番 事務室

横濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社 瀛船出帆廣告

長幸丸 三月廿八日着
山東丸 三月廿九日發 大沽、芝罘、門司、神戸行
横濱丸 四月五日發 大沽、芝罘、門司、神戸行

乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ

營口代理店 旗昌洋行 (電話廿六番)

三井洋行

●精製白砂糖新入荷物あり

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請蒞臨是荷

倉庫部

今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候 (電話百二十八番)

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院内分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋陳鐘表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸

運輸部

運搬特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本號賜顧幸甚

總司理人田中賴之助謹白 電話 東店五五 西店一三

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行并滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼營有輪船一艘載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水腳棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷

總司理人 業堯卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祗做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之

正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞

本主人敬啓

仁裕號

保裝運各幇火輪船生意兼賣各割洋什貨糧石等此佈

營口西大廟街路北警乙第十二號

代代木烟公司

本行專售 日本官造紙烟 星象牌(斯達)櫻花牌(撥彩)百合花牌(利利)均已馳名内外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沽來福)清香撲鼻佳美適口而價値極廉 諸尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議

東櫃 北街(電話九十五番)
西櫃 西義順棧内(電話架設中)

明治火險公司

三井洋行經理

本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議 (電話六十六番)

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し最に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口 瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、
上等石炭

以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部 河岸通(電話五十二番)

聲明丟失滙票

啓者於清歷正月二十二日有營口永同和在阿什河買和順昌匯票兩張計該號昌字十七號永記名下 平銀五仟參百五拾兩整又拾八號功記名下 平銀二千六百七十五兩整均係二月二十五日准期營口付銀此票係於正月二十二日由阿着合盛信局梢營不料路中丟失今已向該營分號掛號說明此二票無論失落何人之手作爲癈紙望各中外官商切勿收用特此登報以爲聲明

清歷二月二十四日

永同和主人啓

失票聲明

啓者本號於本月十四日接省城來電云有阿什河寶泉長在阿由和順昌匯妥長記名下 平銀一千零柒拾兩整係昌字二十八號至營交與本號代取此票托友携營不意行至奉天車站偶逢匪人竟設僞局詐去當即寄電之後本匯主業已來營即至同興宏内廣和順昌該二家自昔頗有相契刻間已將此匯欵如數使出倘有官商拾得此票者即作癈紙特此聲明

明 二月廿一日恒增通主人啓

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本十新到各種木料東洋炸子貨真價實以應各主顧局急之需國本主人啓

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一槪俱全價値格外從廉克已、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

周 東清鐵道 裕和盛運輸局

(電話八十一號)

在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年并分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧

總司理主人 周鶴雲
運輸部主任 高濱麟太郎
謹啓

丸重洋行 貨物運輸

啓者本行前在營口躉賣雜貨已有年今經關東總督府之特准開辦東清鐵路運貨不論貨種多少以安全迅速誠實廉値籌貨主之利便爲旨如蒙中外士商光顧請來營口西北街本洋行或牛家屯火車站構内分荘面議不悞

電話 營口 拾八番 牛家屯 四拾六番

營口商業學校招入學生

宗旨 造成辦公實業家
學科 修身、漢文、詞章、習字、算術、圖書、地理、歷史、理化、商律、簿記、理財、商品、商業學、日語、英語、体操
學額 五十名
資格 十五歲以上文理明通者
學費 特免惟寄宿舍生自備饌費餘皆本校墊辦
入學 陰曆三月初一日

本學校由客春開學以來肄業諸生頗著成効玆因添建樓宇增設講堂應需器具種々皆備現擬招入第二次學生

夜班 專爲有志向學而白晝忙於謀生者計每晚兩點鐘之功課授以漢文算術商業學日語以一年爲限

○欲覽各樣詳細章程可到本校索閱

聲明假冒

協泰昌興記絲號大有昌洋雜貨號外面並無作保等情近因同字號最多恐有假冒本號圖章特此聲明

本號主人白

上海 中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已歷多年會與日本製造名廠訂有專銷之約凡新聞紙料印書籍各式紙料莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也

中井洋行

自造 煉瓦●瓦

並に各種石材販賣

營口青堆子 加州組 (電話八十六番)

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物產合名會社 牛莊支店 (電話六十六番)

東洋號運貨局

本局新設新民府今經官准由新民府至奉天輕便鐵路開辦運貨凡鐵路運貨比之車運速而廉乘人所知也本局所辦事宜誠實爲旨懇切受托重更不欺且運費格外公道以籌貨主之利便不論貨種多少論担算或論噸算均可倘有遺失壞本局照價賠償若需客票本局亦可飭人代買如蒙仕商賜顧請至本局或奉天支局面議寄貨可也特此週知

新民府輕便鐵路火車站東洋號運貨局本店
奉天輕便鐵路火車站東洋號運貨局支店

東京電報

●海軍の紀念祝日 我海軍は五月二十七日を以て海軍一般の紀念日と選定せり

●井上伯の滿韓視察 井上伯兩三日中に東京を出發し京坂地方に滯留の上滿韓視察の途に上る

●臺灣地震後報 臺灣嘉義斗六の地震被害は頗る多大にして死傷一千餘名あり

●露國の清國要求拒絶 北京清露談判にて露公使ポコチロフ氏は總べて清國の要求を拒絶するのみならず日清協約にて確定せる分をも否認せんとする由傳へらる

●駐露公使館開館 在露國帝國公使館は本月九日本野公使任と共に開館せり

（以上三月二十日發電）

倫敦電報

●佛國內相と同盟罷業 佛國內務大臣クレメンソー氏はレンに到着し同盟罷業者に對して演說して曰く余は同盟罷業の權利を重むずる者なり政府は罷業者にして秩序を紊亂せざる限りは軍隊を派遣することなかるべしと

（三月十八日發電）

●獨國の人口總計 獨國政府の統計に依れば獨乙帝國の人口は六千零六十萬五千一百八十三人なり

●モロッコ會議の立すくみ アルジェシラスに於けるモロッコ會議は目下立ちすくみの姿なり瑞西國政府は獨墺兩國か全國に何等の打合せをも爲さずして瑞西國人をモロッコ國の警視總監に任用すべしとの提議を爲したることに就て迷惑に感じ居れり

（以上三月十九日發電）

雜報

●滿洲近事

▲奉天省の輸入製塩 奉天省の南部なる海城蓋平等の州縣にては其製鹽額頗る多大の額に及ぶを以て嘗て日本人の運搬して之を奉天省內地に致さんとせるも將軍遂に之を肯んぜざりしが今や遼東半島日本の租借に歸し同地方に於て製鹽の業を營むとも清國之を沮止するの權無きに至れるを以て奉天將軍は將來外人の手に由り內地に輸入することを禁じ一に清商をして之を買入れ內地の需要に供せしむべしといふ

▲清官の奉天鐵道視察 津報の報ずる所に依れば北洋大臣は嘗て鐵路總辦梁孟亭を派遣し新奉鉄道を視察せしめたるが梁氏が此の視察復命せる所に依るに該鐵道たる固と軍事上に使用する筈なりしに現に旅客貨物を運搬せるは明かに條約に違反するものなりとし速に外部に申請して日本に詰問すべきことを以せりといふ

▲政務廳設置の電請 奉天將軍趙爾巽氏が此程清廷に電請せる所に據れば滿洲には近時通商塲を開くこと爲り隨て內外に對する交涉も必ず繁劇を加ふべければ奉天省適當の地に政務廳を設立し專ら中外の交涉に當らしめたく若し允許を得ば外交に晒熟する人員を選びて派遣せられんことを以てせりといふ

▲黑龍江將軍の礦權力爭 黑龍江礦權已に露人の手に委するや久し黑龍江將軍程德全氏之を憂ひ礦權回收を以て急務と爲し此程外部に電請して漠河觀音山都魯河并に畢拉河四處の金礦を露人より回收し以て黑龍江省の命脈を保つべきことを以てせり

▲郵務受繼の準備 日清協約の結果として奉天省の郵政事務は之を清國に引繼ぐこと爲れるを以て清國總稅務司ローバートハート氏は近日中吏員を奉天に派遣し其事務の引渡しを受くべく目下其人選中なりといふ

●大連通信（三月十七日發）

日露戰役の輸送に關し大連碇泊司令部の負ふ所の責任や實に大なりしこと宇品、門司其他の各碇泊塲司令部等より以上の要衝に當り而して能く其任務を遂行し終れり實に豫定の計書以上の成蹟を收めて無事凱旋部隊の上船を終結したるなり、之を祝する當然のことたり本日を以て之れか祝賀會は同碇泊塲構內に擧行さる、案內を受けて來會する者民政長官、防備隊司令官、本願寺連枝、其他各官衙の文武官及び碇泊各御用船の上級船員、民間紳士新聞記者無慮五百餘名、午砲を合圖に式は開始さる一同臨塲するや中島司令官の挨拶あり石塚民政官の答辭あり式終るや立食の饗あり、午後一時半を以て塲內に設けられたる模擬店は開かる、之れに斡旋する所のもの在大連知名の料理屋の藝妓仲居等にして其員數百幾んと大連總出以て之を賑せり、而して此模擬店たるや碇泊各御用船の設備する所にして、各々其船名を屋號に附し且つ上級船員各々皆之れに斡旋す其一二の例をさんか洋食店の春日ホテルは春日丸、管理汁粉屋の太和館は太和丸、珈琲店の三河屋は三河丸、正宗ホールの笠戸館は笠戸丸、おでんやの御吉野櫻は御吉野丸、ビヤホールの太郎軒さ太郎丸、喫茶店の日英ホテルは日英丸等其他を合して合計十四軒各々來賓の歡待に力む、其餘興として煙花あり、演藝あり演藝は軍隊の催す所に係り新派舊派の演劇は勿論二輪加あり劍舞あり輕業あり淨瑠璃等あり舞臺は爲めに設備されたるなり更に一方に土俵ありて兵士或は水夫等之れに力を角逐す以上は陸上の光景にして更らに海に眼を轉ぜんか碇泊十數隻の各船滿船飾を爲す檣上の萬國旗翻々飜りて貌緜百万迭り盡して今日一日の安息を得たるを大いは慶祝せんとするにや肖たり、時是れ二時短艇競爭や開催さる第一回笠戸丸 仁川丸、春日丸等にして笠戸の勝、第二回碇泊塲司令部、十五觀音、太和丸等にして司令部附船員勝、第三回富美丸、神州丸、碇泊塲司令部船員等にして神州勝、第四回御吉野丸、笠戸丸、日英丸等にして笠戸勝、第五回笠戸丸遠江丸、三河丸、等にして笠戸勝、而して撰手競爭は喝采塲裡に執行さる即ち笠戸丸、神州丸、碇泊塲司令部船員等の三隻にして流石はチャンピヨン一進一濟、勇愈よ加はり滋ます櫂の淙々水を切る音や高し笠戸、神州其優劣や判し難し互に嘵々、聲を立てて腕を振つて競ふ遂に決勝點に到て笠戸、神州を抜く事一艇身遂に優勝旗は笠戸丸壯者の手中に歸わり之を以て短艇競爭は終る時に五時又他の餘興も終りて一同退散す實に盛況なる大連開始以來と稱さる（在大連安齋生）

雜錄

●雁うちの記 凸坊

土曜日の晩に花村さんといふが來て、明日は雁うちに行かうといふ。鳥でも魚でも、生物を捕ることなら、直ぐ賛成するので、お祖父さんは早速同意した。其癖お祖父さんが獵に行つて、獲物のあつた事は一度も無いのである。

明日は雁うちだといふので、お祖父さんてんてこ舞ひをして居る。先づ隣りの小田さんから鳥銃を借りて來た、モーゼル銃ぢやが餘程の種子ヶ島式である、引かねなども錆びついてコッコッする。が、マア是れでも大丈夫だと言つて、そつと壁を狙ふて見て、もう雁のうてたやうな氣持で居る。お祖父さん可笑しいなと揶揄へば、『凸坊！お前も連れて行かうか』といふ。行けば乾度お辨當を脊負はされるから、止めやうかとも思ふたが、待て〳〵お祖父さんは何時も恐い顏をするから、今度は一つ失敗を素破抜いで、新聞に出して遣るのも面白いと思ふて、『それぢやお伴をします』と答へた。お祖父さん益々得意で、『明日は澤山捕つても仕方が無いから、五六羽捕つたら歸つて來ようなー』などゝ獨語して、又壁に向ひ狙を定めて頻りにパチ〳〵やつて見るのである。

翌日日曜に爲ると、朝疾く花村さんが誘ひに來る、花村さんは獵の黑人なので、其扮裝も自然凜々しく、極めて身輕であるが、お祖父さんは捕れもせぬ癖に、用意が業々しい。ゲートルをかけ半外套で身を固めた所はよいが、腰には瓢簞やらお辨當やら、辨慶の七つ道具のやうにぶら下げて門を出るのである。途は跡へ跟ついて、コツ〳〵行く。永久橋を渡ると、果して「坊！お前辨當を持て」といふ。コリヤ大變たと思つたが、併し覺悟の前であるので快く脊負つた。

昨日迄はまだ西比利亞下ろしの北風が吹き荒さんで、寒氣身にしむ許りか沙塵を捲揚げるので戶をすら迂濶と開けることが出來なかつたが、今日は打て變つた好日和、旭は東天に輝き渡りて蒼穹一碧鏡の如く心も何となくそよ〳〵して足も自ら輕く、これに櫻の花か桃の花でも咲いて居たら、申分の無い春氣色である。お祖父さんは東鄉日和だなどゝ頻りと感心して居るから、坊は透かさず突込んで『東鄉さんは營口に居るか？今日は凸坊日和だぞ』と言つて遣つたら、『貴樣は口許り達者だが、もう些と步行くと、足が動か無く爲つて了ふぞ』と言つて、例の種子ヶ島を荷げて、『ヘ』の字形に爲つた居留地豫定地の新開道をてく〳〵步行いて行くのである。花村さんは始終そら許を見て、雁が來ないかと思つて見張つて行くのである。

軈て牛家屯の停車塲を左に見て、鐵道線路を踰え畦逕を辿りつゝ、半道許り行くと、向ふに松林が見える。其間に燕の巢のやうな支那人の土屋が點々散在して居る、花村さんは『ウンもう彼れが雁田村ぢや、彼處の後に沼があつて、それへ雁が下りて來るのぢや……ヤー彼處に雁の一列が行く、アレ見給へ』と指ざした、流石黑人丈けあつて目が極めて敏い。

雁田村へ來ると、もう沼が向ふに見える。村は微々たる一寒村であるが、松林が四邊を取圍んで、其眞中に小高い岡がある。岡の上へ登ると沼が尙一層明瞭見える、雁が幾千幾万と群を成して、一上一下、灰の降つたやうである。お祖父さんはもう躍り立つ許りに喜んで居る。それに營口では、迚も見ることの出來ない靑々した松林が、非常に氣に入つたので、お祖父さんは松根に腰打掛けて、グウ〳〵酒を引かけて居る。花村さんは『酒を飲むと雁が捕れぬ』と言つてるが、聞入れ無いで『愉快々々』と言つて、大きな瓢簞を半分許りも傾けて了つた。漸う〳〵花村さんに促がされて岡を下つた。沼へ近づくに從つて雁が益々多く、形も益々分明に解つて來るので、お祖父さん大得意。花村さんは『何んでも周章ちやいけない』と言つてるに拘らず、無暗に駈け出して、沼の畔迄來た。お祖父さんは勢ひ込んで居るものぢやから、半外套も腰の物も悉皆坊に持たせ、二三丁も進んだと思ふと狙を定めてカチンとやつたが、餘り急いだものだから、彈丸を込めて無つたので、何の效能も無い、『忌々しい』と言つて、急に又彈藥を詰め込んで、今度はズドンと一發打ち出した。併し距離がまだ遠かつたので、幾万と群がる雁は、左樣なら！と悠々起ち上つて、向ふの沼に下りた。

此雁田村の沼地といふのは、丁度お祖父さんの腰の瓢簞のやうに成つて、大小二個の沼が帶の如き一綫の水道によつて繫がれて居る、兩方を合はすと長さが約一里もあらうか、今しがお祖父さんが打つた處は、瓢簞の上部の方の池であつたが、銃聲を聞いて、よつこら〳〵起ち上がつて、次なる尻つぼの方の廣い沼に行つたのである。お祖父さんは悔やしがつたが仕方が無い。沼は丁度此九六日前に氷が解け始めたので、大方水が現はれて居る。其現はれて居る水面に、凍え死んだ無數の雜子魚が浮んで居るので、雁はそれを漁り食ふべく此沼地へ下りるのである。日本方面から滿洲を經て北に歸るへき雁は、皆んな此處に中休みをして、そして腹拵らひをして行くものと見えて、其數が幾萬とも知れぬ。水に浮んで居るものは、棋局面上に碁石の敷き詰めたるが如く、尙解け殘れる氷の上に日向ぼつこをやつて居るものは、宛ながら珠數を繫ぎだるが如く、其空に翔けるものは、眼を蔽ふ許りの大數で、先きに灰が降つて居る如くに見えたのも無理は無い。お祖父さんは一發放なせば譯が無いなんかと頻りと威張つて居る、自分等も實は手捕りにでも出來さうに思ふたので、今度こそは幾許頓馬のお伯父さんも、屹度打ち留めるに相違無いと、かう考へておづ〳〵見て居ると、お伯父さんは何んでも近くへ行つて打た無くちやいかんといふので、眞つ裸に爲つてザブリと水の中へ這入つた、花村さんは『否、此方面から打つて捕れぬ』といふのに聞き入れない。『ナーニ寐鳥を打つちや此事ちや』と言つて、ザブ〳〵進んで腰以上にも水が來る。雁はもう眼前五六尺の近さに居るのである。自分は今晩は雁の御馳走に必ず遭ふことが出來ると思へば嬉しくもあるが、又お伯父さんが今捕つたらどんなに威張るだらうと思へば、極めて興味が無いやうに感んせらるゝ。何う爲るだらうと、打ち守つて居ると、お伯父さんは身構へをしてズドーンと一發打つた、慥に音は聞えた、發火もしたに相違無い、群がる雁は一時にパッと驚いて騷ぎ立つたが、十間許り向ふへ行つて、平氣な顏で又餌を漁ぎつて居る。お伯父さんは何うしたのかと思つて居ると、片頰から流血淋漓として水をバタ〳〵さして來る、雁の逃げたは愛嬌であつたが、今怪我をして歸つて來たのを見ては、徒らの坊も驚かざるを得ない。どうしたんだお伯父さんは！」と聞けば、時代付の種子ヶ島であつたので、雷管が破裂して頰を傷けたのであつた。併しお伯父さんは元氣なので、唯だ寒むい〳〵と慄えて、又酒を飲むのである。酒を飲みつゝ、群集せる無數の雁を見て其壯觀に驚いて居るのである。花村さんは『傷が痛く無かつたら向ふに廻つて打たうか』と言へば。『イヤ雁は打つより見る方が愉快ぢや』と言つて又酒を飲む、お伯父さんが酒を與に入つて飲み出したら、もう〳〵も無く己れも無いのである。暫時するとお伯父さんは偶然瓢簞の輕く爲つたのに氣付いて、遽に心細く感じて來た、「ヤーもう歸らう』と言つて身仕度をした、花村さんは不性〳〵であるが、亦一緒に立ち上つて、前來し逕を辿りて、麗かなる今日の日和を嘆美しつゝ、雁田村に着いた。花村さんは『仕方が無いから鳩でも雀でも捕つて行かう』と言つて、村藪に入つた。銃聲が二三發聞えたかと思ふと、もう帶囊に大小雜鳥がブク〳〵這入つて居る、矢張黑人丈けある。坊は花村さんに『貴方が雁を打つたら乾度捕れたに違い無い、殘念でしたねー』と言ひつゝ、お伯父さんの顏を見ると、伯父は無愛相な苦笑を漏らして居た。コリヤ餘計な事を口走つたと思ふたが、實は其時の痛快といつたら殆ど話にも出來ないのである。

* * *

家へ歸つた翌日、お伯父さんはどうしても昨日の遺憾を忘れられぬと見えて、ボーイを第一市塲にやつて大きな雁を買はせて、其晩に盛大なる雁鍋の饗應があつた。坊はたらふく御馳走に爲つた上に、新聞の種迄捕へたので、昨日の雁うちの最高名は、辨當持の我頭上に加はつた事は、新聞がチリンと來る迄、お伯父さんも知らないのであつた。

●飛脚旅行（五） 朴捻生

鐵嶺に着したのは彼是午前二時過ぎてあつた例に依つて便乘券を業務取扱所に返納し係官に城內への道のり及び宿屋などを尋ねたる所此處では思ひの外詳さに教はれたるも悲や初旅の上に夜中の事とて地理も无分判らず如何せんと獨り心中に思案をなしつゝ居りたるに傍らに停車塲監視の憲兵丸山氏なる人余の思案顏を見るに見兼たるか僕は此近邊を巡回するから何處か宿屋を目つけて進ぜようと意外の厚意に地獄て佛とはこゝ等の事を云ふかと余は三拜九拜して氏に伴はれ約五六丁先きの鐵嶺館てふ旅館に案內され辛うじて露營の難を免れ寢に就きしは三時過てあつた翌日は早朝飛起きて軍政署に至り井上副官野田憲兵長緒方交涉課長等の諸豪に面會して此地の事情など聞き晝飯の饗に預り歸途彌生館支店に立寄り主人宮下氏は營口にての知り合いなるを幸知邊に泊まるが何かに就き便利なるを以て鐵嶺館を切揚げ彌生館に宿りぬ同家は此地屈指の旅館にして座敷の設備は凡て日本式居間寢室の設けあり其他萬事の備へ附け至極心持ちよき高等の旅館なりき夕飯を終りて後ち本社の通信を托せる岡崎氏の寓居に至り同伴して旅舍に歸り四方山の話をなして十二時過ぎ寢に就き明けの日は氏と共に第十四師團長を見舞はんとて司令部に至り先づ參謀長に刺を通じて來意を告げ師團長に取次を乞ひしに早速面會の榮を得たれば余は先づ昨年閣下か戰役の爲め名譽の負傷せられたるを慰問せしに威風自ら備はれる中將は上下の區別なき平民的なる口調を以て徐に曰く我輩の如き老爺の死損ないか餘命を繫ぎ數多の勇士を殺したりと謂はれし時は余は爲に無量の感慨に打たれて覺えず襟を正さしめたりき余は將軍には初めて言を交はせしも其應待振りを見るに餘程交際術に巧みなる溫厚紳士なり百万の貔貅を一號令の下に四肢を操つる如く自由自在にあやなす將軍左もあるべし約二時間計り話され歸途に着きしは午后五時頃なりき

汽車發行

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝幇子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一一、一八	下六、二〇
山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
北京至塘沽	下二、四〇	下八、三〇
天津至唐山	[illegible]	[illegible]

税關手續

一、船舶輸出入荷物取扱
一、荷物保管
一、日本郵船部、回漕部
一、爲替附キ荷物ヘ便利ヲ計リ可申候

○フレノロジー

○西洋揣骨相術 運命窮通歷々指陳如神矣
○人々の頭腦と覗制して身の……

天氣 營口地方天氣豫報 自三月昨日午後六時至三月本日午後六時

北の風晴れ

小説

新作小説 おとし胤　徳田秋聲

（十七）

健三は、淺猿しくも物狂はしくなツて、我を忘れて、此の手紙を引扯断ツて了はうとして、ふと氣が付いた。

「待て待て。」

平常落着いた性分は此樣な場合にも活きて躍る。彼は暴風のやうに狂ふ心を制へて熟と考へた。頬は火のやうに熱くなツてゐた。

「待てよ、苟くも他人の手紙だ…………他人の手紙を破ツたりなんかして…………可けない可けない。大變に悪い！」

彼は、悚然として頭から水を浴せかけられたやうな心地。

まるで悪い夢から覺めたやうに、けろりとして、

「何うしたんだらう、何うして俺は此樣なことを爲やうとしたんだ。何んだツて此樣な淺猿しい心になツた？」

と彼は、幾度か頭を振ツて、そして其の手紙を舊の通りに墓の上に置いた。

墓の上に置いて、彼は潔く此處を立去らうとして、また立停ツた。何か魔あツて、後から引止めるやうに足が停ツて了ツた。

「だが、全体誰が彼樣な手紙を置いて行ツたのだらう。彼樣な箇所に彼樣な手紙を置いて行く……勿論何か深い譯が無ければならない。」

と考へると妄念が沸く。業が煮える。『馬鹿な。』と叱ツて見るけれども、一度騒出した心は容易に鎮まらぬ。

そこでまた彼は、くるり踵を回らして墓に向ツた。そして奇しく光る眼で熟と手紙を見詰めた。

「何樣なことが、書いてあるか手紙の中が見たい！」

これが健三の念望である。此の念望が起ると、彼は地面に吸付けられたやうに動かれなくなツた。悪いことゝ知りながらも、彼はせめて手紙の中の文句が見たいのである。それでとつおいつ思案の躰だ。

健三は、男らしく何も彼も諦めて、其の手紙を其のまゝして此處を立去るだけの度量も無ければ勇氣も無い。さればと謂ツて、此の手紙の封を切ツて、良心の呵責せらるゝやうな悪事も犯したくも無い。言を換えると、佛にもなれなければ、悪魔にもなれない。それで彼は、無性と胸を惱ましながら、何時までも何時までも墓の前に突ツ立ツてゐた。さながらに地面に植付けられたやうに突ツ立ツてゐた。

やがて、彼は、荒鷲が小鳥を追駈けるやうに、猛然たる勇氣を振起した。

「えゝ、管うもんか、兎に角此の手紙を取ツて行ツて・遣れ……そして熟く考へた上で俺の手から光さんに渡して遣るとも、また破いて放棄ツて了うとも、何方とも都合の好いやうにしろ！」

成程これが此の場合最も上分別だ、固より佛にはなれぬが、悪魔にはならずに、而も假令一時だけにもしろ或安心が得らるゝのだ、健三は熟く考へた上で、是だけの智慧を搾り出した。そして其に定めて了ツて、彼は手早く手紙を取上げて、眼を瞑ツて懐中へ捻込むだ。これだけでも彼は、餘程悪事を働いたやうに思ふのであるから捻込むと、直に眼を瞑ツたまゝ一散に駈出した。何樣なに慌てたのか草刈籠をすら忘れて置いた。

而ると傍の木陰から、ぬツと現はれた巨漢。健三は・殆ど此の巨漢に突當りさうになツた。その時巨漢は、落着いた聲で。

「こらツ、おい、忘物があるぢやないか。」

さして大きな聲では無かツたが、其の聲は、健三の惱天に響渡ツた。

「えツ。」

とばかり、彼は鳥渡足を停めたが、顔色を變えてもう、夢中だ。前後の辨も何にもあツたものでも無い彼の巨漢を突退けて、遮二無二に此處を逃げやうとした。彼は眼が晦むで了ツてゐるのであるから、只其の聲を聞いたばかり。巨漢の現はれたのさへ知らぬのであるから、勿論其の姿を見ることが出來なかツた。

「逃げるとは、卑怯な奴だ！」

と巨漢は、薄氣味の悪い微笑を漏らして猿臂を伸ばして、健三の襟首を引ツ掴むだもう幾らぢたばたしたツて爲樣が無い。荒馬を取押へた勇者も、猫に押へられた鼠のやうに、意久地なく大地に引据えられて了ツた。

●骨董録　元來世間見ずの老耄した田舎の老媼さんかどうした勘違ひか二枚折の枕屏風へ東京土産の錦繪やら柱暦やら商店の賣出廣告やらと同列に當時の銀行の五圓紙幣一枚を貼付けて置いた、所へ或る日通りがゝりの旅商人か煙の火を借りに這入て來た狡猾なる彼の眼光は爭でか之を見遁かさん何氣なき態を裝ひ甘く老媼さんを口車に載せて此破れ屏風を四五十錢に買ひ受け意外の利益を得たとは二十餘年前東京近縣にあつた話の樣な事實だとは當時の新聞で見た。然るに此程某新聞を見た所之に似よつた記事があツた、それは斯樣てある、清國の西太后は元來黄金か大の御好物でイヤ黄金の一匁よりは白銀の百匁の方がより御好物てあるそうじや其れ故太后の萬壽節なぞゝ來たら群臣は借金を質に入れても競ふて高貴な品物を獻上するのか毎年の例だ所て兩廣總督の岑春煊氏は或る時の萬壽節に當り大に風變りの品物を獻上し一屛ふか兎に角百方意匠を凝らした結果世界各國にて發行する紙幣の中百圓札のみを集蒐して之を獻上した然るに太后は之を御覽わして輪てもなし何んだか詰らん物なりと仰せて侍臣に命じて取捨てしめられたそうだ岑春煊氏の失望は思ひ遣らるゝが一は二十餘年前に於ける日本の蠢愚なる田舎媼の所爲一は近年に於ける四億萬衆に君臨してしかも聰明の聞へ高き老太后の所爲としては其對照亦甚だ奇ならずや（蒼然生）

遠征雜詩　扉陽

等是太平民

旌旗蔽日起征塵　陣鼓齊鳴士氣伸
他日凱旋衣着錦　看花等是太平民

和光雅度

敵前進退意深沈　只爲測量跋渉來
君德如風民是草　和光雅度自堪欽

提督東郷

提督東郷旦界豪　東洋海上氣燄高
大連旅順自由日　婆艦新來起巨濤

野菫　黄雨

賤の女はうらはつかしとなかむらん
はな盛りなる野邊の菫を

同　露月

ひとたはわ君にさゝけん春の野に
心をこめてつみしすみれの

投書かご

▲求業生に告ぐ某所に採用の意向あり投書係迄其住所姓名を報せらるれは取次の勞を取るへし至急を要す（本欄係り）▲中野町の金子亭の内儀か下婢か何にか知らぬが人が物を買ひに行くと何時でもクスくと笑ひ出す俺が色男だと思つて失敬な野郎ぢや（滿洲浪人）▲小甫街大通第二更科の並ひに料理店がある其二階で時々三毛猫が巫山戯て居るのが皆往來から見える餘程外見が悪るい料理店は皆平野町へ逐ひ込んで仕舞つた方がよい（風紀生）▲私此程風を引き込み寐就きたる儘どうしても起きられ無いので健康診斷に行くとが出來ませんでしたから町醫者にかゝつて診斷書を書いて貰らをうとしたら三圓取られましたよ病氣でお客も取れ無いのに本當に目から火が出るやうでした（下婢お花）▲貴社投書籠欄に毎々御厄介に爲つて居た斷髪代は近々其筋から諭示を下して値下げをさするさうですが月一回に儉約したお方も今ではさう財布を緊縮する必要も有りませんでせう（報告生）

廣告

公告

電話交換加入者募集

當局電話交換加入希望の者は至急申込可し

追而二月十五日以前に申込みあるも未だ架設に至らざるものは重て申込を要す

明治三十九年三月三日

營口軍政署電話局

盛京寫眞倶樂部

第一條　本倶樂部ハ盛京寫眞倶樂部ト稱ス
第二條　本倶樂部ハ寫眞術ノ研究家ヲ以テ組織ス
第三條　本倶樂部員タラントスル者ハ部員ノ紹介ヲ要ス
第四條　本倶樂部事務所ハ假ニ營口元神廟街三船寫眞店内ニ設ク
第五條　本倶樂部ハ同好者相互ノ娯樂ヲ謀リ兼テ寫眞術ノ研究ヲナスヲ以テ主眼トス
第六條　本倶樂部ハ毎月一回（第一ノ日曜）假事務所ニ品評會ヲ開キ部員ノ撮影シタル寫眞ヲ蒐集シ出席者ノ互撰ヲ以テ其等位ヲ定メ優等ナルモノニ限リ是ヲ假事務所ニ陳列シ公衆ノ縦覽ニ供スルモノトス
第七條　本部員ノ撮影シタル寫眞ハ此ヲ假事務所ニ保管シ置キ希望者アル時ハ（撮影者ノ承諾ヲ得タル上）相當ノ代價ヲ以テ譲渡スル事ヲ得
第八條　第六條ノ優等品ハ次回ノ品評會ニ於テ抽籤ニ依リ部員ニ頒ツモノトス
第九條　本部員ハ假事務所備付ノ器械附屬品及ビ暗室等ヲ隨意使用スルコヲ得ベシ
第十條　本部員ハ會費トシテ毎月銀三十錢ヲ出金スルモノトス

明治卅九年三月十八日

盛京寫眞倶樂部

發起人
稲垣仲太郎　黒澤禮吉　相部政太郎　前田鍬次郎　黒澤茂雄　後藤瞬太郎　齊藤健太郎　小河原政藏　岩間善五郎　小林隆雄　神崎富三郎　上野正則　三船秋香

爲替券無効廣告

清曆本年正月二十二日弊號は在阿什河和順昌に於て本年二月二十五日營口にて支拂ふべき爲替券即該號昌字十七號永記名下銀五千三百五十兩仝十八號功記名下銀二千六百七十五兩の二通を買受け去る二十二日阿代河より合盛信局に托し送附の途中之を紛失せり依て直に該營口分號へ此由を説明し以后該券發見するとも無効に御坐候間此段廣告候也

營口　永同和主人啓

故沖禎介

追悼の爲め江湖諸賢より玉はりたる詩歌書畫を編集上梓して一の紀念帖と爲し度き旨同存父沖莊巌氏より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度くと存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也

一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、紙判は美濃紙大
一、沖莊巌在沖繩縣那覇地方裁判所官舎
一、御問合の件あらは左に

新民府奈良崎八郎　營口瀛華學院上野政則
大清通運公司安田貞藏

同志友人　敬白

夜警決算報告

一銀二百六十三圓五十錢　二月分徴収高

内譯
一銀百五十圓　公議會エ苦力費支拂
一仝三十圓　新聞廣告料、領收書用紙
一仝二十一圓二十錢　臨時雇員給料、帳簿料、

差引殘金六十二圓三十錢

右及報告候也

第一派遣所　夜警委員

料理　滿月　平の町（電一五二）
滿月支店　平安（元都樓跡）
店主

◉開業廣告

船舶貸借賣買周旋　貨物運送仲立委托販賣業
石炭販賣及輸出入業
門司四國や商會神戸代理店
神戸市榮町五丁目一七　西野商店
明治三十九年二月　西野通

營口
本店　彌生　電話四一番
支店　彌生　鐵嶺西門外大街

今回新に鐵嶺支店を設け旅館及會席御料理營業仕候間本店同樣御引立之程奉願上候

一位置　西門より西の方五六軒北側に候　館主宮下只七郎
一構造　室内裝飾等日本式　特別室あり凡て營口本店の設備に比し優るとも劣るとなし
一待遇　は親切と叮嚀を旨とし調理萬端十分注意仕候

和洋御料理　會席

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候

營口永世街二本町　日本館本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入樓町　日本館支店（電話十九番）

各位樣

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より

△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大澁しげ子）

院主　森　㰍
醫長　鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

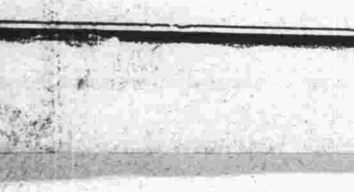
御手輕料理

一釜飯御一人前　銀五十錢
一湯豆腐一銅壺　銀二十五錢
一突出しの外は御注文なければ差上不申候

月　日

營口元神廟街二〇九號

翁亭



營口永世街第一八四號平野町

材木
荒物
販賣

秋田洋行

本店 下關 秋田寅之輔商店

雜貨
醬油
木炭
すし米
清酒 大樽 半樽

營口西北街

阪神組

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着

第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらす御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候

ブッシ商會

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137　電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

本家日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房

浅田飴

あさだあめ

肺癆痰喘咳、急傷風、痰嗽小兒風痰、病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣

永世街・東瀛大藥房

房主 藥劑師中馬龍造

石材、碎石
並に自家製造 廉價販賣
瓦、煉瓦

營口元神廟街四十號第二號

順吉洋行

醇良自釀清酒

札幌ビール
朝日ビール
日付萸大和
酢
醬油 瓶詰樽詰
菓子
罐詰 色々
洋酒類
右取次販賣

牛莊港東營口
宅合名會社
營口支店

ゼム

財菜者芳香馥郁而美味可愛靈約也

ゼムハ著大ナル効能ト愛スベキ美味馥郁タル香氣ヲ有スル良劑

口中香藥

大日本東京
山崎愛國堂
大藥房處修

大清國發賣處
淺野大藥房
營口永世街(二本町)
各國有名靈藥總發賣處

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣

江副洋行

營口永世街

北京
扶桑旅館
東單牌樓大街路西
客室清潔料理鮮新

御旅館 豐陽館
上海(電話一〇六番)
日本郵船會社荷客取扱
歐米瀛船乘船取扱
館主 米田藤吉

營口中央市場前
爲事勉强乘車乘船好位置

旅館 東京樓

店主 熊田兼次郎 (電話七十八番)

即席和洋料理 東京樓支店 (電話四十四番)

西洋料理仕出し御需に應ず

鐵嶺 西門外大通

御旅館
御料理

福屋

弊店儀從來平野町に於て左の營業致し居候處此度商業擴張の爲左の所へ移轉仕候間倍舊御引立の程奉願上候

豊濟門街李俊の前

ペンキ塗請負 京阪組

御旅館

天津

芙蓉館

驛屯軍御用
並西洋料理

奉天日本旅館

瀋陽館

家屋宏壯清潔
接待優遇懇切

開放仝時一閲業
奉天小西門外十間路北

M. Iizuka,

CONTRACTOR,

ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.

MODERATE RATES.

No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

清國營口二本町二五五號

發賣 料木 標字 木級

塩川商會

主任 鹽川峯吉 (電話一三六番)

遼陽西門内 鹽川商會

●建築用材北海道産松大角(自廿五尺至三十尺)一万立方尺餘
外に電柱用材杉丸太長(自二十尺至三十尺)八千本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

大連市信濃町卅九號地

旅人宿 東館

特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

宮門抄

二十一日

外務部 欽天監 侍衞處值日無引 見 銘安專摺謝開復處分
恩 王中堂續假二十日 侍衞處奏派代進西苑門內大臣班
派出壽耆 阿霖 翁斌孫李士珍伺候 召見
召見軍機 翁斌孫 李士珍
外務部遞封奏二件 李灼華遞封奏一件

二十三日

吏部 翰林院 正黃旗值日侍衞處引 見一名 商部三名 吏部五十五名 理藩院十五名 甫紅漢一名 洵貝勒由 西陵回京請 安 與伯由 白龍潭回京請 安 于齊慶吳蔭培伺候
召見 吏部奏派驗看月官之大臣
派出李殿林 陳邦瑞 溥興 溥潤 胡燏棻 陸寶忠 李綏藻 紹昌 茹泰 徐士佳 儼忠 英奎 陳恆慶 杜本崇 蔡金臺 惠裕
召見軍機 于齊慶 吳蔭培

上諭恭錄

二十一日奉

上諭龐鴻書奏分別舉劾屬員一摺湖南署永順府知府候補知府徐啓永綏廳同知吳傳綺永順府 文坪同知沈瀛安鄉縣知縣徐芳泰署淸泉縣知縣廖世英興寧縣知縣王章祺署桃源縣知縣羅維翰候補知縣賀國昌均着傳旨加獎淑浦縣知縣陳智融性情輕率且有藉案苛罰情事大挑知縣王士 心地顢頇 辦理厘金任 聽司巡舞弊試 用同知金紫垣年老昏庸難期 造就宜 章縣教 諭周維 翰緇檢多踰不堪司鐸署靖州零溪巡檢候補巡檢孫爾厚縱差苛擾聲名甚劣均着即行革職代理常德府經歷候補縣丞王桂森違例擅受致釀人命着革職歸案審訊茶陵州知州段長佑年力就衰不能振作著原品休致零陵縣知縣程壽保才識疎短不勝煩要着開缺另補龍山縣知縣劉蘧孫閱歷太深案多積壓着開缺留省查看餘着照所議辦理該部知道欽此

二十三日奉

上諭福建汀州鎭總兵員缺著段祺瑞補授欽此
旨杭州織造仍着盛桂接管欽此
上諭崇善奏特參庸劣不職各員一摺福建崇安縣知縣陸錦燧聲名平常被控有案長泰縣知縣王恩聰嗜好甚深難期振作汀州府經歷張應泰聲名平常泰縣學教諭張秉华性情浮躁試用縣丞趙長慶行止[illegible]霞浦縣三沙巡檢林廷璋性情貪鄙惠安縣典吏沈忠亮不知遠嫌均著即行革職汀軍同知陶濟福年衰多病着勒令休致長汀縣知縣文達措置失宜壽寧縣知縣林景綬聽斷稍懦漳浦縣知縣盧亢樟措施失當均着開缺另補汀州鎭總兵敖天印年力已衰難膺閩寄福州城守協副將姜河淸年老才庸難期振作均着勒令休致餘著照所議辦理該部知道欽此

奏議

政務處王大臣奏爲遵 旨酌擬寬籌舉貢生員出路請通行各省一體遵照辦理摺

奏爲請 旨事竊臣等恭讀上年八月初四日 上諭所有鄉會試一律停止其以前之舉貢生員分別量予出路等因仰見
朝廷敦崇實學嘉惠寒畯之至意凡在士民同深欽感伏維隆古之制儒與吏通歐美之規政爲士學是以無空虛之學術亦無廢棄之人材現科舉初停學堂未廣各省舉貢之數合計不下數萬人生員不下數十萬人 國家二百餘年皆以科舉取士士之儁異者咸出其中其次者亦多鄉黨自好循循規矩不乏可用之才中年以上不能再入學堂原奏保送優拔兩途定額無多此外不免窮途之歎方今捐例未止保案尚多或以微勞而累遷或以輸貲而進秩偏長薄技皆得有以自見而不患沈淪如該舉貢生員等非研經已久即績學多年似較捐保兩途造就尚易如能量材器使加以磨礱使儒吏兼通政學普習未始不可收拔十得五之效臣等謹按例章仰體 德意將舉貢生員出路詳酌妥籌有爲新章所已行有爲成例所原有稍示變通仍予限制期有以上副 明詔下慰士心其原奏保送一條各省仍應遵照辦理至各該舉貢等應分發外省者既有到省甄別之條又有入法政學堂肄習之案擬請 飭下各該督撫認眞辦理以期澄汰庸瑣成就廉能庶於掄材馭吏之道均有裨益謹將酌擬寬籌舉貢生員出路章程六條繕呈
御覽恭候 聖明採擇施行 一酌加優拔貢額查直隸總督袁世凱等奏停科舉摺內籌出路一條聲明十年三科之內各省優貢照舊舉行已酉科拔貢亦照舊辦理皆仍於舊學生員中考取已入學堂者不准應考優貢額少請按省分酌加分別錄取等語查優拔貢向皆於優等生員取錄兼 文行所得人材較多自應量予加取以廣 拔擬請已酉科舉行拔貢照向額加倍考取本年丙午即係考取優貢之年以後每三年舉行一次各省均照例額加兩倍考取其原生應出歲貢並准照原定額數倍取以惠寒畯均於壬子年考優後一律停止學堂學生仍照原奏不准與考 一考用謄錄查定例會試及順天鄉試皆於薦卷內挑取謄錄送各館當差二十九年管學大臣遞減科舉原奏有多挑謄錄之請上年吏部亦奏准考取謄錄現各部書吏漸次裁汰淸繕文牘需人必多擬歸吏部辦法酌加推廣各部院衙門均令考用謄錄幫繕公牘舉人五貢生員分爲三等酌給津貼 一年後分別奬敘准以實官分發其舉人拔貢優貢考充謄錄當差期滿並由該堂擇尤奏請改用七品小京官在部行走俾昭激勵 (未完)

東京電報

●日本大員考察海港 日本前海相山本君日昨啓程擬往佐世保吳竹敷大連旅順等處視察云

●賞賜金鵄勳章總數 日政府考查勳績賞賜金鵄勳章者自日俄開戰之日起至西本月十五日計共三萬一千一百五十八名云

●落合參謀長晋京 關東總督府參謀長落合少將於西本月十七日晋京云

●正金銀行牛莊支店長新任 前上海日本總領事小田切萬壽之助君此次派爲橫濱正金銀行牛莊支店長不日啓程赴任云

●俄國革命黨員創設新報 在日本長崎之俄國革命黨員等於西四月一日創刊新報於該地大鼓吹自由主義云

●中俄兩使之會商 西本月十六日駐京俄使與唐欽使會商議論約二點鐘云

●俄兵尚駐屯國境 據確報云日前俄兵之撤退者現尚駐屯國境隱然有蟠踞之意且在黑龍江畔建造兵舍頗多云 (以上西三月十九日發)

●海軍紀念日之選定 此次日本海軍省定於西五月二十七日爲海軍紀念日每年以該日恭表祝意云按五月二十七日即爲日本海海戰大捷之日也

●井上伯擬視察滿洲 伯爵井上君刻由東京赴京阪地方小住數旬擬即視察滿洲云

●臺灣震災之慘劇 聞此次臺灣嘉義斗六等處有地震之災計死傷一千餘人頗形慘劇云

●俄使郤中國提議 中俄交涉事宜既經數次會商然俄使不認中國提議並不承認中日協約云

●在俄日公署之開辦 在俄國日本公使館已於西本月九日開辦云 (以上西三月二十日發)

中外要聞

●德國擴張海軍之計議 德國擴張海軍會會員合有九十萬人近日曾開大會該會長蘭西宣言欲維持世界平和非賴海軍不可查我德海軍今於西一千九百零六年雖擴張尚未充滿然前相卑士麥公有言德國最可懼者祇有神而已欲守卑公之議必須以擴張海軍爲要又如查姑仙亞阿路顯布丹等之模型巡洋艦實係無用廢物且我德國民每年儲蓄金計有二十萬萬馬克以之製造大軍艦力固有餘又有蘭布利多演說如無海軍則德國百年之陸軍亦將成廢物又中央裁判所長霞武所撰東亞感其中有言如德國不爲擴張海軍將用何法以保居留海外之德國商工業幷可望其發展乎按該會因回念日俄爭戰之教訓及觀地球上之形勢故於一千九百零六年度在議院已贊成海軍擴張之案每年增建一艦以爲德國之急務其決議之文亦已定矣

●擬設附屬紙業學堂 湖北廣藝興紙廠係留學日本紙業學生回國集貲所辦於漢口擇地建造新廠現已竣工惟所辦各種應用造紙原料尚未到齊故一時亦難開廠近聞該廠設附屬紙業學堂一所專招年幼生徒肄業每日除上講堂聽演各門功課外令其在廠中各機器房親手工作以資實地練習不取學費亦不住堂及學成後則由該廠擇尤聘請充當工師以勵後來就學者之心大約春間即須招生開辦云

錦報

●演說會第四次會期之演說 昨念五日爲本埠萬國會會期是日會員齊集火神廟听者頗多首由會正魏牧師雅各演說大意謂中國國民急宜求所以自強在各國不獨無疑忌之心幷深有扶助之意譬之身體各國之與中國皆五官百骸也官骸一有不靈則全體因之不壯其議論崇閎意見融洽有如此者次則美國領事薩君演說學務魁君星皆演說提倡國民捐事件霈君典生演說禁烟之法而潘君玉田韓君濂青亦各有演說云云

NEWCHWANG, WEDNESDAY, MARCH 21, 1906.

THE RUSSO-CHINESE CONFERENCE, (PART XI.)

The present awakening China may have been greatly emulated by the brilliantly successful example of Japan in demonstrating what is possible even for the despised Asiatics. However, she must never lose sight of what superior advantages her little neighbour had been favoured with, before Japan attained her majority as a nation.

Japan, hemmed around by the sea and without bordering an inch on the territory of a strong aggressive Power, had been able to start and carry on the national task of grand re-organization on modern lines best adapted to her peculiarities, in serene freedom from foreign molestation. Further, she had allowed no foreign interests in any form take root deep in the interior, except at a stipulated number of open ports on the sea-board and that within definitely prescribed limits. Consequently, the presence of foreigners on her soil had given few occasions only to trivial international complications at the worst that could be amicably settled with little difficulty, until she could throw off the yoke of extra-territoriality and so bring all foreigners under her own jurisdiction, through making good her claim for a formal recognition from the Powers as a full-fledged member of their Community, standing on an equal level with themselves. In the meantime, the spirit of Yamato, the undying love of the country,—too proud to lag behind others, too strong yet elastic to despair, and too pure in essence to admit of adulteration—that has been assimilated with every tissue of the Japanese system, under the reign of the unbroken line of one Imperial Dynasty during 2567 years, animating the latent faculties of the naturally gifted race, had been leading at full speed the people united in a most solid compact, like the harnessed steam power pulling the stupendous weight, over mountains of difficulties, without ever jumping over the track of good common sense.

Japan had enjoyed firstly the geographical protection and secondly immunity from foreign interests prematurely invested in the interior. Thirdly, the ardent progressive spirit of the people, enflamed and sustained by an intense patriotism of enlightened character, could transform the antiquated Oriental country, obscure and isolated, of comparatively slender resources, into a nation worthy of the respected society of the Powers, in an incredibly short space of time, which still had taken no fewer than 31 years after the Restoration, even for a land in which instances of official corruption were almost rare curiosities.

And thus, by the time the internal Japan had been flung open to mixed residence in 1898, years of universal education had prepared the masses of the lowest classes for the intelligent and courteous reception of foreign visitors, and the perfected organization of local self-government even in the remotest villages, going hand in hand with the exemplary police system attaining rare efficiency, could afford them all the protection they might exactingly look for.

The Powers that had received Japan into their select society not without some misgivings at first, could find subsequently no cause for regret and their wonder at the marvelous regeneration has only commanded their deepening respect for the Japan.

Her honesty of purpose following a uniform policy of self-restraint and modesty expected of a junior member, had played a persuasive part in drawing Great Britain, the mightiest, proudest nation on earth, into an alliance with her in 1902, besides enlisting the invaluable moral support of no less great Power the United States; without which priceless ties Japan, for all her splendid fighting machinery, could never plunge into the Japan-Russia War with any hope for success, and awakened to the outbalancing weight of which her envious enemies and their tools scattered all over the world are now persisting in weakening them by every mean trick known to human intelligence.

To-day falling on a Japanese holiday, no issue of the "M. D. R," will appear to-morrow.

(Mar. 20, 1906).

JAPAN	Bank T.T.	99¾	LONDON	Bank T.T.	2/- 5/16
	" Dem'd	100		" De'd	2/-3/8
	P'ate 15 d/s.	100¾		Cr. 4 m/s.	2/1
SHANGHAI	Bank T.T.	71	AMERICA	Bank T.T.	49¼
	" Dem'd	71¼		" Dem'd	49½
	P'ate 15 d/s.	72¼		Cr. 4 m/s.	51
TIENTSIN	Bank T.T.	102½	Bar silver	- - - -	30 1/16
	" Dem'd	102¼			
	P'ate 10d/s.	101¼			

時刻

市場北三階樓 時計店ノ二階 宮原公司

營口豐濟門街第四十四號李俊氏宅の西半丁 利生堂

氣報

昨日の氣温 最高温度四十度八 最低温度二十七度三
昨年との比 低十三度 高七度

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 柏屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷 初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 ニ位銀行西三程

料理 千鳥 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五二） 店主 麻田久二

旅館 大和館 永世街三十四號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

東京 生蕎麥 一式 東庵 元神廟（電話百五十九）

旅館料理 金城ホテル 永世街百六十六號 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理旅館 醉花園 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街

さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 一力 並ニ溫泉 毎日新湯 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 營口ホテル支店 主任 井上源吉

御料理會席 菊水館 主任 朝枝園捷

旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

和洋料理 遼東館 遼陽城內東

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽俱樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家

御料理 主任 西野治三郎

御料理會席 來々亭 主任 石田清

奉天旅館料理屋案內

旅館 奉天館 奉天城內鐘樓南大街 奉天軍政署指定旅館

和洋御料理 日清俱樂部 奉天大南門裡大街

商人御定宿 瑞豊館 奉天小西關大街北側 館主 押野嘉吉（電話　號）

旅館 天神館 奉天小西關大街北側 館主 荒川一松

旅館料理店 日の出樓 奉天小西門通（元紅葉館跡）（電話七號）

旅館料理店 日盛館 奉天小西關大街南側 館主 入江龍男（電話　號）

料理店 梅松館 奉天城內灰市街東華門宮殿東側 館主 押尾富次郎

旅館料理店 大和館 奉天大西關高臺子廟前 館主 今井ロノ

旅館 大正館 奉天小西邊門外十間房道北側 館主 大草村行

奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すへき様に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候以上

旅館兼料理店 高砂館 奉天城外十間房第十五號

奉高館 奉天城外廿四號高砂館支店 館主 宇才智平

旅館料理店 日奉館 奉天小西門外大街 館主 原田清五郎

高等旅館 東洋館 奉天大西門外小什字街（電話號） 主任 藤島初野

御料理 梅ヶ枝 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

會席料理 三日月 營口警務部前南へ入

撫順炭大販賣 多少に不拘御用命被仰付願上候 金城館販賣部

特別室落成 營口金城ホテル 旅館部

藝妓仲居 新來 金城館料理部

奉天小西門外 會席御料理 高等御旅館 金城館

一 關內外蘆漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候

一 海關手續 事務取扱

一 鈔關手續 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱

一 船舶貨物取扱 但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱

一 其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號 大清通運公司 營口支店

諸鐵工製作 鑛山船舶機械鐵工 輕便鐵道附屬鐵工 土木建築用鐵材料 其外鑄物諸般

營口綏定門街 ブッシ商會東 川喜鐵工場

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ふも尙ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也

營口旅館料理屋同業組合

新着の御知らせ

東京より 蜂印香竄葡萄酒、羊羹、味付海苔、旅行用トランク、手提鞄、御婦人足袋、謄寫版、眞筆版、コッピープレス等

其他 立雛印白酒、寄木細工、漆器、陶器、金屛風等夫れ〳〵產地より着荷仕り候

新到 各種皮包、皮箱、文具格、畫掛、畫漆茶机、畫漆茶盤、金漆畫屛、金漆鏡臺、眞筆版、謄寫版、極上麝香水、蜂牌香竄葡萄酒、

營口 加藤洋行（電話八十番）

工 飯塚工程局材料部 營口元神廟前（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一 北海道產松大角材外種々

一 石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等

一 日本石炭數種

○上等石炭 一噸に付 銀十六圓

○上等日本米 一石に付 銀二十圓

御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也

○板材木 ○木炭 ○亞鉛板 ○洋釘 ○干塩魚 ○石灰

喜久洋行 永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル 大連鐵道停　場附近民政署前兒玉町

標子 木板 料木 發賣 營口青堆子 清水寧木局（電話九十四番）

歐米各國最新流行形 西海洋服店 永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

東營口郵便局東隣 島田洋服店

新民屯停車場前 同支店

爲替相場（三月二十日）

日本向 百圓（軍票百圓に付）

上海向 七十一兩二十五錢（同）

天津向 一百〇二圓二十五錢（百弗に付）

芝罘向 一百〇三圓二十五錢

日本品最近物價表 加藤洋行

一 半紙 一〆 二圓九十錢より三圓廿錢

一 美濃紙 全 七圓五十錢

一 仙花紙 全 六十錢

一 [illegible]紙 一帖（六十枚） [illegible]

一 狀袋 百枚 二十枚綴 三錢二厘以上四錢

一 蒲團 室內裝飾品及寢具 六圓九十錢以上六十五圓

一 座ブトン 三枚組 十三錢以上十八錢

一 [illegible] 十帖 [illegible]五十錢以上三十五圓

一 疊 二圓六十錢以上三圓

一 蒲様 [illegible]

一 麻緞通 十枚 八圓

一 綿緞通 全 三圓

一 [illegible] 一疊敷 三圓五十錢

MANCHURIA DAILY REPORT. Subscription 4 cts. a copy 80 cts. per month.

本紙定價 一枚ニ付 銀四仙 一ヶ月前金 銀八十仙 半ヶ年前金 四弗八十仙 一ヶ年前金 九弗六十仙